

局所的に人気なスポーツと地域メディアの関係性 —富山県氷見市のハンドボールと地方紙に着目して—

狩山 晴帆

ハンドボールというスポーツは、全国紙やキー局のテレビ放送など、全国規模ではこれまでほとんどメディア露出の機会がなかった。しかし、富山県ではインターハイ予選の中継やその試合の様子が地元紙やローカル局において積極的に取り上げられている。本研究では、富山県におけるハンドボールというスポーツの地域性について、メディアの側面から明らかにすることを目的としている。この研究を進めるにあたり、大まかな仮説を立てた。それは、まず県内でも特にハンドボールが盛んな富山県氷見市内にあるハンドボールチームが全国大会で結果を残すなど、ハンドボールが盛り上がるきっかけがあり、結果を残したハンドボールチームを地域メディアが取り扱いはじめ、その取り扱う回数が増加した。そして、氷見市を中心にハンドボールが県全域で人気になり、その人気が拡大し、再生産されることで今の状態に至った、というものである。この仮説を立証するため、新聞分析と半構造化インタビューを実施した。

新聞分析は、富山県の地方紙においてハンドボールが本当に積極的に扱われているのかを確認するものである。対象は富山県内新聞シェア第一位の北日本新聞とした。分析結果、北日本新聞の紙面上ではマイナースポーツであるハンドボールの注目度や期待度がやはり高いということが判明した。スポーツ面だけでなく社会面や地域面にもハンドボールが取り上げられていることから、ハンドボールへの注目は試合の勝敗だけでなく、ハンドボールをめぐる地域の人々や地域社会にまで及んでいることが分かった。

半構造化インタビューでは、富山県出身のハンドボーラー、北日本新聞の記者、氷見市ハンドボール協会の役員を対象とした。インタビューの結果、地方紙は全国紙の縮小版ではなく、地域のスポーツチームの活動ぶりを地域に伝える使命があることが分かった。

以上の調査から、本研究は最初に立てた仮説を裏付けるとともに、仮説に不足していた地域性への視点を補う結果となった。地域メディアがマイナースポーツを取り上げるきっかけとしては、まずそのスポーツチームが全国大会で結果を残すほど強くなるという状況が大きい。そしてその地域にその競技のスポーツチームができるなど、地域社会に影響を及ぼすこと、さらには地域メディアの関係者と地域スポーツを支える者の人間関係が構築されることが重要である。また、メディアの影響によるマイナースポーツの人気拡大と再生産については、富山県の人々やハンドボール選手、実業団選手が所属する企業に対してはメディアの影響力があるものの、地域における元々のハンドボールの体制やハンドボールの習慣、文化にはメディアの影響は見られないということが判明した。地域メディアによる扱いは、人気拡大や再生産に大きな影響力を持ったが、富山県におけるハンドボール文化の地域性にはほとんど影響を及ぼさなかったと考えられる。

(指導教員 寺地 美奈子)